令和6年度　災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業
第1回　オンライン研修　実施報告書

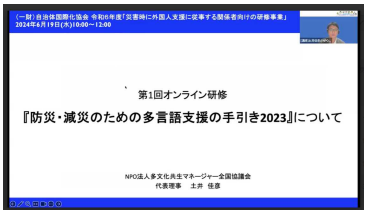
■日　時:令和6年6月19日(水)10:00～12:00
■参加者:97 名
　進　行:特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会　理事　麻田 友子

■タイムテーブル

時刻	内容
9:50	開会前アナウンス
10:00	開会
10:05	【講義】 防災・減災のための多言語支援の手引き 2023 について 講師:特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会　土井佳彦
11:10	休憩
11:20	【講義】 上記 引き続きワークシート・多言語災害情報文例集について
11:40	質疑応答
11:55 12:00	まとめ ＊アンケート依頼、次回の案内 ＜終了＞

【主催者挨拶】
(一財)自治体国際化協会
　多文化共生部　多文化共生課長　滝澤 正和 氏

【講義】
「防災・減災のための多言語支援の手引き 2023」及び多言語災害情報文例集の紹介・活用講座
　講師:特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会
　　代表理事　土井 佳彦 氏



（質疑応答）

≪前半終了時≫
Q.避難所運営訓練を企画中。ブラジル人の国民性や文化など事前にトラブルシューティングしたいので、経験を踏まえ、教えて欲しい。
A.基本的に、安易に国籍だけで「〇〇人は□□だ」と決めつけないようにしている。国籍のちがいよりも、母国や日本での生活や災害等に関する知識・経験のちがいがトラブルに発展することが多い。確かに、傾向として捉えられることもあるが、それを国籍と紐づける際には注意が必要。

Q.今後も外国人が増加しますか？
A.実際どうなるかはわからないが、国は「骨太の方針 2023」の中で、2033 年までに留学生を 40 万人まで増やす計画や、卒業後の国内就職率を6割まで上げることを目標に掲げ、また閣議決定で「特定技能」の受け入れについて5年間の上限を 82 万人としたことから、今後も外国人に日本に来てもらいたいと考えていることがわかる。

≪後半終了時（受付時にいただいていた質問に回答）≫
Q.病院、消防の方々にどれほど「やさしい日本語」が浸透しているでしょうか。
A.そのようなデータを目にしたことがありません。皆さんの地域で、対象者にアンケートを実施されてはいかがでしょうか。

Q.発災した場合の、外国人支援の基本的な一連の流れについてご教授いただきたいです。
A.基本的には、今日の講義でご説明したとおりです。地域や災害の種類・規模等によって変わってくると思いますので、訓練等を重ねていくことが大切だと思います。また、追加でご不明な点などあればアンケ―などでお知らせください。

Q.平時の多文化コーディネーターの役割と災害時外国人支援情報コーディネーターの役割は多くの部分で重なると思うのですが、実際に兼任している方はいらっしゃいますか。
A.「多文化コーディネーター」というのは一部の地域で独自に育成されている人材だと思いますが、それが公表されているのかわかりませんので、「災害時外国人支援情報コーディネーター」（総務省のウェブサイトで一部名簿が公表されています）と兼任されている方がいらっしゃるかを把握する方法がありません。

Q.能登半島地震では私自身が被災者になり、生活再建期になっても様々な申請の方法が毎日のように変化し、情報を「自らが取りに行く」大変さがありました。初動対応期、避難生活期の支援準備はあるものの、生活再建期における正確な情報の変化をどのように伝え、またニーズを拾っていくかご教授願います。
A.基本的には、法務省（入管庁含む）や外務省等、外国人関連の省庁や所属組織の関係部署からの情報収集を行うことが第一だと思います。加えて、警察や社会福祉協議会などの関連機関とのやりとりも大切です。そのような機関から情報を共有してもらうためにも、平時から連携できる関係づくりが必要になります。日本人でさえ、すべての情報をキャッチしているわけではないので、「完璧な情報収集・発信」ということではなく、できる限りやっていくことになると思います。

Q.多言語災害情報文例集の実際の活用事例等
A.ぜひ、参加者同士で情報交換をしていただきたいと思います。過去に災害に遭われた地域の自治体等に問い合わせてみるのもよいと思います。次回の第2回のオンライン研修では被災経験地域による事例紹介があるので、ご参加いただければと思います。

【閉会】

【参加団体一覧】

地域ブロック	都道府県	団体名	参加者数
北海道・東北	北海道	(公社)北海道国際交流・協力総合センター	1名
	宮城県	(公財)仙台観光国際協会	1名
	山形県	山形県国際人材活躍・コンベンション誘致推進課	2名
	新潟県	新潟県国際課	1名
		(公財)新潟県国際交流協会	1名
		新潟県国際交流協会	1名
		新潟市観光・国際交流部国際課	2名
		(公財)新潟市国際交流協会	2名
関東	東京都	(公財)東京都つながり創生財団　多文化共生課	1名
		港区地域振興課(国際化推進係)	1名
		荒川区文化交流推進課	1名
	埼玉県	(公財)埼玉県国際交流協会	1名
		(公社)さいたま観光国際協会国際交流センター	1名
	神奈川県	神奈川県文化スポーツ観光局国際課	1名
		川崎市役所多文化共生推進課	1名
		相模原市さがみはら国際交流ラウンジ	1名
	茨城県	(公財)茨城県国際交流協会	1名
		茨城県女性活躍・県民協働課	1名
		茨城県常総市	1名
	千葉県	千葉県国際課	3名
		千葉県国際交流センター	1名
		千葉市国際交流課	3名
	山梨県	山梨県男女共同参画・外国人活躍推進課	1名
	栃木県	栃木県県民協働推進課	1名
	長野県	長野県県民政策課	1名
東海・北陸	愛知県	(公財)愛知県国際交流協会	4名
		(公財)名古屋国際センター	1名
		愛知県知多郡武豊町役場総務部防災交通課	1名
		犬山市	1名
	石川県	能美市国際交流協会	1名
		石川県国際交流協会	1名
	静岡県	(一財)静岡市国際交流協会	1名
		(公財)浜松国際交流協会	1名
		浜松市国際課	1名
近畿	大阪府	(公財)大阪府国際交流財団	2名
	京都府	京都府国際課	1名

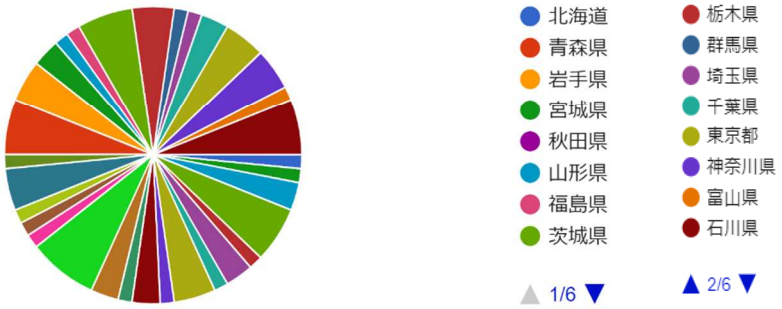
		(公財)京都市国際交流協会	1名
	兵庫県	兵庫県産業労働部国際局国際課	1名
		(公財)兵庫県国際交流協会	1名
		(公財)神戸国際コミュニティセンター	1名
	奈良県	奈良県外国人支援センター	1名
	滋賀県	滋賀県国際課	2名
	和歌山県	和歌山県観光交流課	2名
中国・四国	広島県	広島県	4名
		広島市国際化推進課	1名
		(公財)広島平和文化センター	1名
		(公財)広島平和文化センター国際市民交流課	2名
		呉市国際交流協会	1名
	山口県	(公財)山口県国際交流協会	2名
		下関市総合政策部国際課	1名
	愛媛県	(公財)愛媛県国際交流協会	1名
	高知県	高知県外国人生活相談センター	1名
	徳島県	(公財)徳島県国際交流協会	2名
九州・沖縄	福岡県	(公財)福岡県国際交流センター	4名
		(公財)北九州国際交流協会	1名
		福岡市総務企画局国際部国際政策課	1名
	佐賀県	(公財)佐賀県国際交流協会	3名
		伊万里市まちづくり課	1名
	長崎県	長崎県	1名
	熊本県	熊本県観光国際政策課	1名
		熊本市国際課	1名
	宮崎県	宮崎県　国際・経済交流課	1名
		(公財)宮崎県国際交流協会	2名
	大分県	大分県芸術文化スポーツ振興財団　国際交流課(おおいた国際交流プラザ)	1名
		大分県国際政策課	1名
	鹿児島県	鹿児島県くらし共生協働課	3名
		(公財)鹿児島県国際交流協会	2名
	沖縄県	(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団	2名

令和6年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業
第1回 オンライン研修 実施報告書（アンケート） 回答：66人

1. あなたのことについて教えてください。

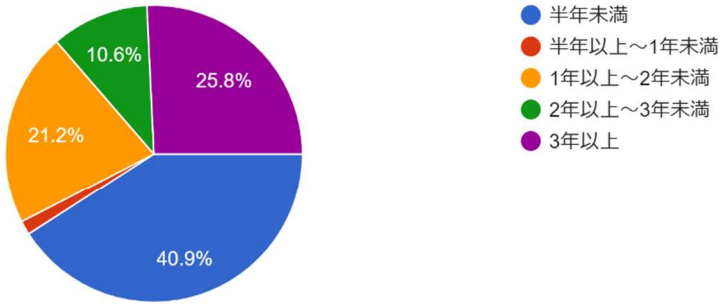
Q1. 所属団体・部署等（選択式）
66 件の回答

Q2. 都道府県（選択式）
66 件の回答

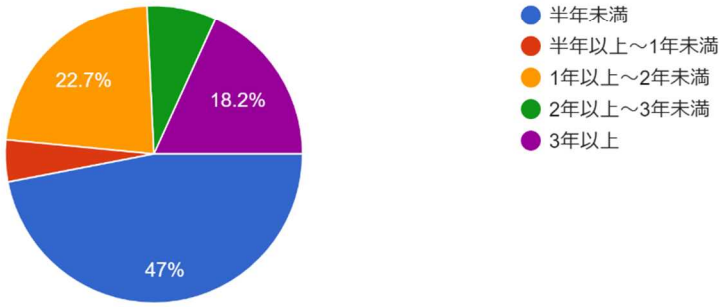


□北海道・東北　8人
□関東　12人
□東海・北陸　9人
□近畿　7人
□中国　11人
□九州　18人

Q3．多文化共生関連事業の経験年数（選択式）
66 件の回答

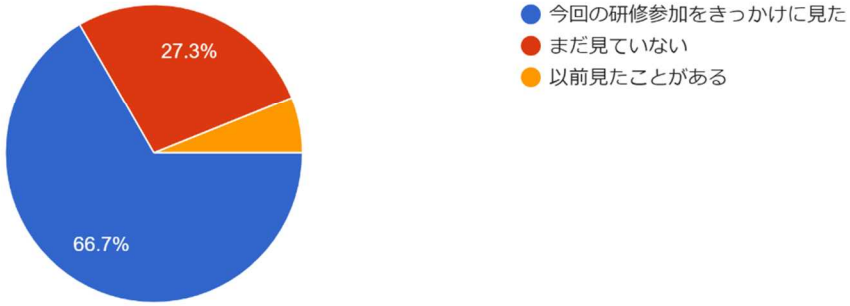


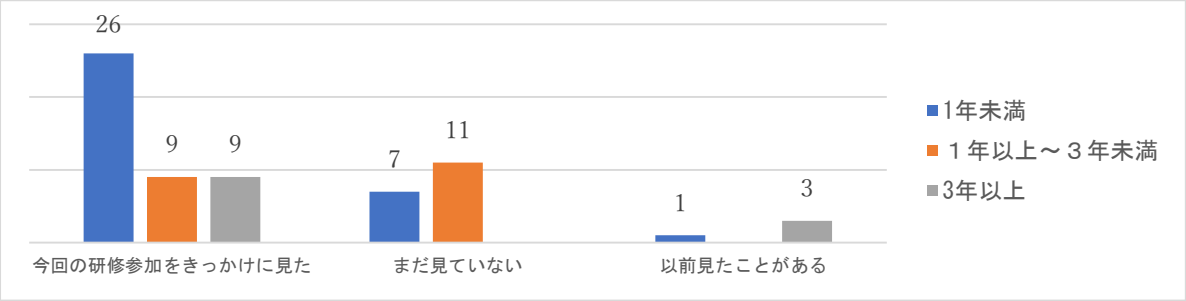
Q4．災害時外国人支援関連事業の経験年数（選択式）
66 件の回答



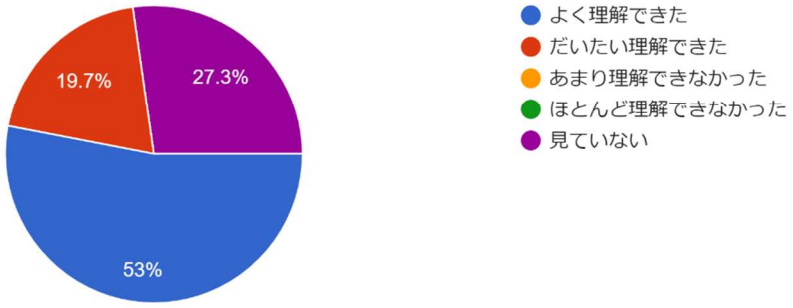
2．基礎講義動画をご覧になったご感想等を教えてください。

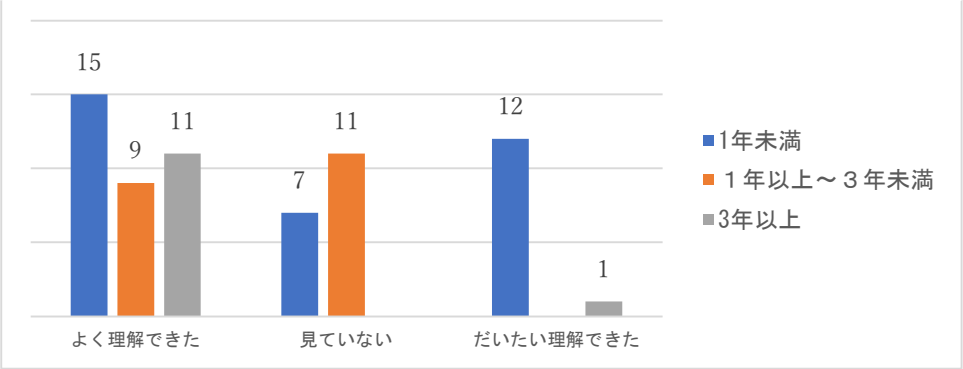
Q5-1．　基礎講義動画をご覧になりましたか？
66 件の回答





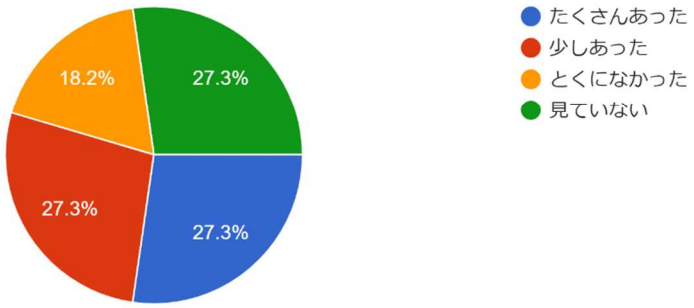
Q5-2. 基礎講義動画の内容は、ご理解いただけましたか？
66 件の回答

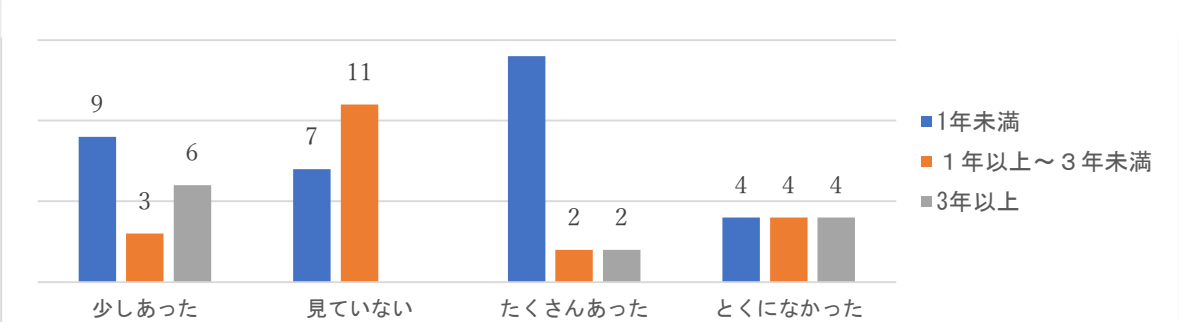




Q5-3.「Q5-2」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください。
≪回答なし≫

Q6-1. 基礎講義動画の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？
66 件の回答

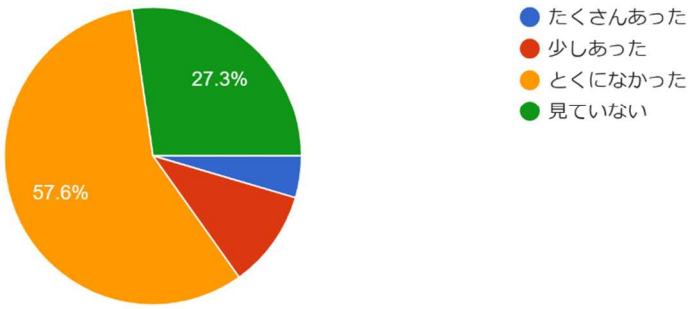


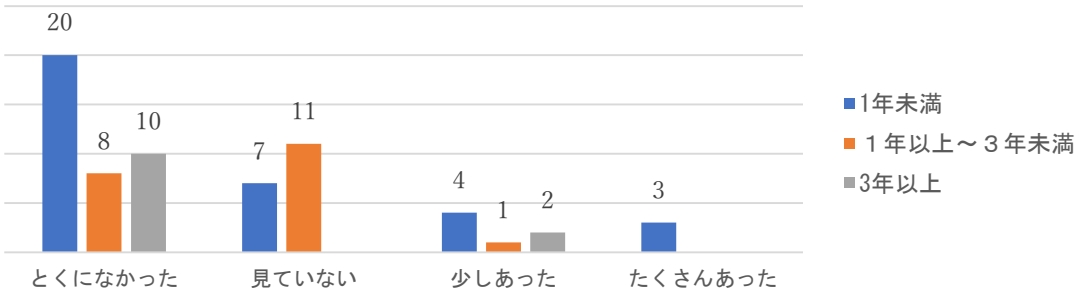


Q6-2.「Q6-1」で、「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- 手引きを予め読んでいたため、第1章・2章の内容は知っていたが、第3章のワークシートの使い方を実際に教えてもらえたのがよかったです。また土井さんが被災地で活動されたときの経験談も交えてお話しして下さったのがよかったです。
- オンラインルールの活用
- 文化的背景などにより、災害や避難、防災に対する認識が全く異なるということ。
- 災害時の土井さんの実体験や手引の具体的な使用方法です。
- これまでの手引きにもワークシートの活用方法の記載があったが，実際に説明を受けながら改めてシートを見ると，活用方法がよくわかった。
- 熊本地震で、モスクに保存してあったハラルフードを在宅避難中の日本人宅に届けて感謝されている様子の写真が良かったです。外国人を支援しなくてはいけない、と感じている自治会長さん等にも見てもらえると認識が変わると思いました。
- 改めて、外国人は日本国籍の有無だけでは判断できないこと、を心がける必要性。
- 災害時に外国人が非難するのは、避難所だけではないということ。外国人は保護されるだけでなく、支援する側になる人たちもいるということ。
- 災害多言語支援センターの閉鎖時の記録が大事です。
- 具体的を出して講演してくださっていたので、ブラッシュアップできました。
- 外国人対応の体制
- 日本人と外国人とで災害に関連する知識・経験の蓄積に差があること。
- 外国人防災リーダーや外国人実習生の消防団
- 特にこの部分ということではなく、基本的なことが簡潔に整理されていて、私たちが災害時外国人支援について研修を実施する際の参考になりました。
- 「外国人支援」というくくりでは外国人はあくまでも有事の際は支援対象だが、逆に地域が外国人コミュニティに支援されるケースもあること（ハラルフードを日本人世帯にも配っていた等）
- 実際に災害があったとき外国人の方がどのような苦労があったかというのがよりわかりました。
- 外国人という言葉についての考え方（多様性についての配慮が必要）
- 新潟県で中越沖地震を経験したが、それを機に外国人の支援体制がつくられていったことに驚いた。
- クレア HP には多くの参考データが公開されている点
- 通訳が必要な言語や必要な通訳者数の事前把握や情報収集先のまとめなど、思い至っていなかったが必要な準備を知ることができた。
- 災害時、どのような状態なのかカテゴリーに分ける考え方やムスリムの捉え方、消防団の話から工夫次第で自治体間に支援差が生じ得ること、災害時支援における ICT ツールの活用方法、平時の備えや確認事項など、多岐に渡り学びました。
- 自分が旅行者だと仮定して、やさしいベトナム語などと言われても困る、というのは新しい視点でした
- 多言語支援センターの設置はあくまで手段であり、まず在住外国人に安心を届けることであるという本来の目的を「再確認」できた。
- 平時では国際交流協会は在住外国人、観光協会が訪日外国人を対応するというのが基本であるが、災害時は誰がどのように被災し支援を求めるかわからないという点で、当協会の役割としては、インバウンドの推進で日本に来ている方々への情報収集や情報発信も考えていかなければならないが、そもそもインバウンドで来ている方々について、どのように情報収集してよいか分かっていないということに気づいた。
- 外国人だけで構成された消防団や災害時に対応するための事前準備について
- 県では災害時要支援者について、言語の壁があることで要支援者となっているが、発災時前からの情報・状態が発災後も顕在化していくという点。
- 「在留資格によって，情報の伝え方は必ずしも同一ではない。」ということや，「在留資格なくても対象者」という説明は，当然のことだが，改めて気づかされた。
- 災害が起こった際に日本人は避難所に逃げようとするが、外国人は避難所に行くという習慣がないということが分かった。

Q7-1.　基礎講義動画の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？
66 件の回答



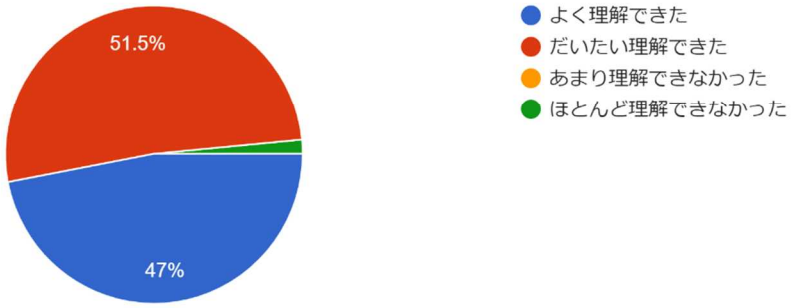


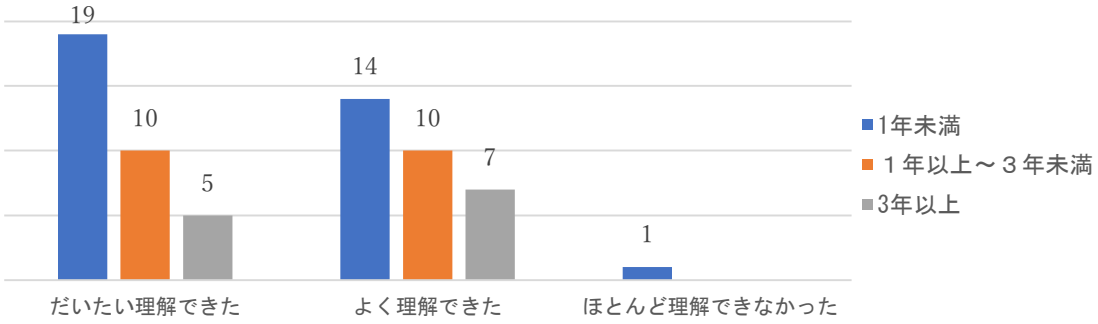
Q7-2「Q.7-1」で「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- 訪日外国人数の把握（自治体ごとにどのように集計しているのか）
- 県がやるべきこと、市がやるべきことそれぞれについて
- 外国人防災リーダーが実際にどのような活躍をしたのか
- 日頃から様々な人と接点を持つことの重要性を知ったが、災害に備えることを外国人に伝える難しさがある
- 災害多言語支援センター設置運営マニュアルの見直しを行なっているところ、どのような点を重点ポイントに捉えて行うべきか、深掘りしたいです
- 各地の外国人防災リーダーの制度や研修・訓練についてもっと知りたいと思いました
- 旅行中に被災した訪日外国人が帰国するまでの流れ
- 外国人にとって、「避難所」は日本人以上になじみがないものであること
- 多くの外国人には、日本で起こる災害について予備知識がないこと
- 外国人による被災者支援の動きがあること

3. 第1回オンライン研修を受講してのご感想等をお聞かせください。

Q8-1. 「防災・減災のための多言語支援の手引...文例集含む）の内容は、ご理解いただけましたか？
66 件の回答

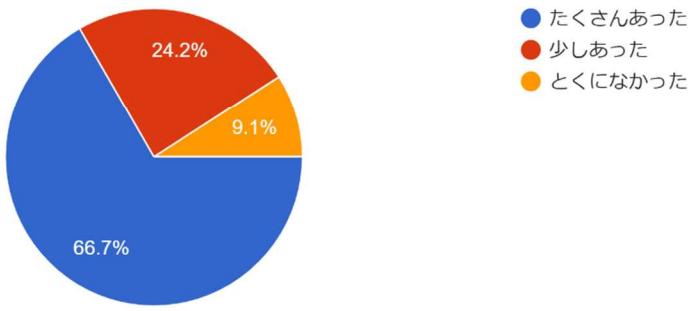


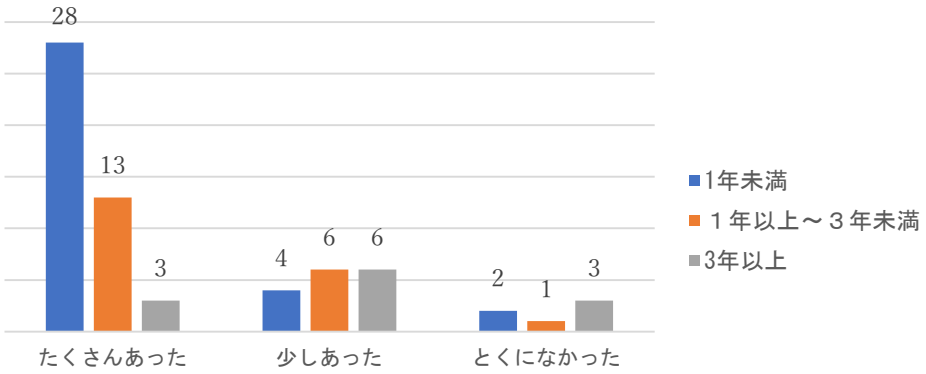


Q8-2.「Q8-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください 。

- まだしっかり読めていないことと、自分の背景知識がないため

Q9-1.「防災・減災のための多言語支援の手引き…たに知ったことや、気づいたことはありましたか？
66 件の回答





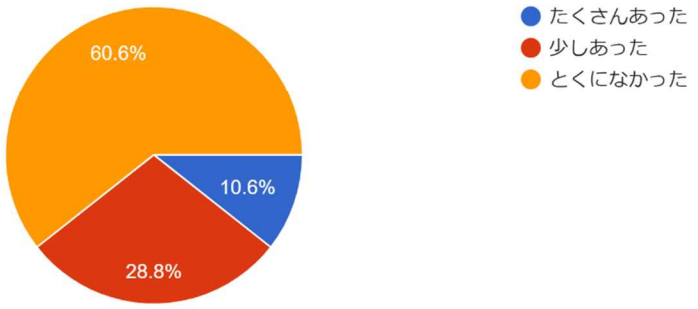
Q9-2.「Q9-1」で、「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください（49 件の回答）

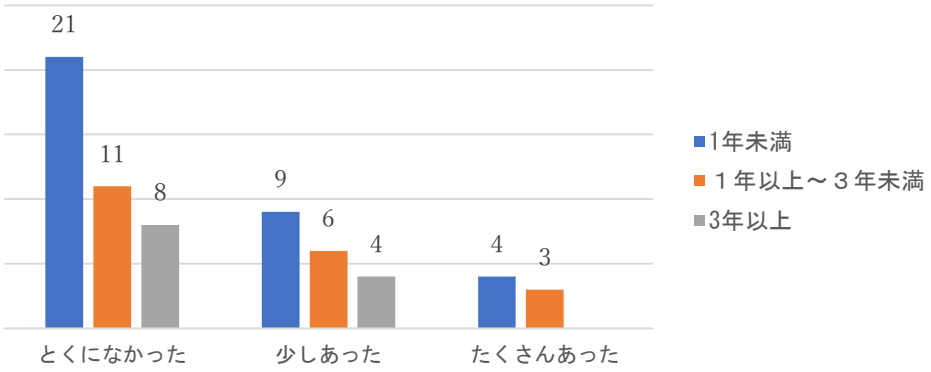
- ワークシート等、クレアに活用できるツールがあることを知った
- 以前にはなかった様式があるような…（前からあったらすみません）
- たくさんあるワークシートの意味が今回の研修で理解できた
- 普段から準備しておくことが分かりやすく示されていた
- 今まで具体的なことが見えていなかったが、具体例を交えて書いてあるため少し想定（イメージ）ができた
- ワークシートを見て、平常時からの細かい準備がかなり重要だと感じた
- 手引きの中のことではないかもしれないが，Google ドライブの活用方法がよくわかりました。また，応援者への連絡事項の重要性もわかりました
- ワークシートの存在を知らなかったので、今後ダウンロードして確認したい。
- 講義の内容というよりは、ワークシートを見て、いざ情報を埋めることを考えたとき、自分がいかに自分の県の情報を知らないのかということを思い知りました
- 平素からの準備が必要なことが多くあるなと改めて認識した。ただ、当県は県全体に外国人住民の方が散在しており、一か所に集住しているところがないので、自治体、関係機関の連携体制はほとんどできていないので、今回の研修をきっかけにできるところから準備していこうと思った
- 昨今の災害を踏まえた改定、初任者にもわかりやすくした工夫
- ワークシートを自分が作成するつもりで見たのが初めてだったため、どういう情報を集めたらいいのか、一度作ったら終わりでないこと、平時から情報を整理しなければいけないことなど
- 災害時に活用できるツールとして、ワークシートや文例集がまとめられていること自体を知らなかったので、今回の研修でその存在を知り、とても参考になった。
- 支援センターの運営に当たり、事前の準備に活用できるシートがこれほど用意されていたこと
- 通訳時に決めた書式に沿います

- こういったワークシートの存在は知ってはいたが、丁寧にご説明してくださったおかげで実際にシミュレートしてみた時よりも理解が早かった。また地域の事情によってカスタマイズできることも多文化な考えでとてもよかった
- 災害に対して事前にどのように準備をすればよいか知ることができた。講師の経験談に基づいた話で、ワークシートの重要性をよく分かった。
- 災害時の実例についてのご説明
- 多言語支援センターの設立について、発災前から関係者間の連携網を整備する必要があることがあまりない視点であった
- 他県の事例やワークシートの活用方法
- 多言語支援ツールは、日本語しかできない日本人のためにこそある。外国人が日本語分かってくれた方が、日本人が助かるので、日本語学習支援、多言語化を進めるのだという視点
- 外部への応援要請の際の注意点など
- 実際に被災地に入る先遣隊がフィードバックする情報についての話が参考になった。
- 文例集やアプリなど翻訳に役立つツールを具体的に知れた。
- 平時から準備するべきことは訓練だけではないということ
- 事前に準備できるワークについて知ることができましたので，早速作成したいと思います。
- 避難行動要支援者、要配慮者（日本語ができない人）は、普段から困っていることを心得る。（言葉の壁、制度の壁、心の壁）②日ごろから災害時の準備が必要だが、実際に起きた場合は、その通りに進まないこと。（災害が起きた時、「いつ・誰が・どうするのか」訓練しておくことが重要。③多言語音声アプリをダウンロードしているだけでは役に立たない。使えるようにしておくこと。
- 全国各地の先進事例
- ワーク 5-2【応援者への連絡事項】 準備するばかり考えており、協会内の勉強会でもここまで考えていなかったように思う。 他県の災害の時に派遣で行く同僚を見てきたが、先発隊の大変さを聞いていた以上にこの研修で改めて知った気がする。今回の研修で、写真も撮っていたことに、後発組はわかりやすかっただろうと実感した。被災者に接することばかり考えてしまうが、来てもらう側は、外部からの応援で来る側の事をもっと考えなくてはいけないと思った
- ワークシートや文例集の活用方法について
- ワークシートを整備しておく必要があると改めて認識した
- 国の動向と市の動向がどうなっているのかを把握し，市の施策が本当に市の規模として実践できるものなのか多文化共生担当課として，防災担当課へ意見する必要性があると感じた
- 文例集が、庁内の防災担当部署が作成する外国人向け資料などの参考になると思った。
- 気象庁の多言語辞書データ
- 巻末付録、多言語災害情報文例集。災害多言語支援センター設置運営に係る「ワーク」の内容の準備内容
- 先に学んだことと同じです
- 実際の発災後に使うツールは、平時から情報を収集し用意しておく必要があることを痛感しました
- 4月に震度6弱の地震が発生し、災害多言語支援センターが立ち上がったものの、指揮命令系統も役割も全く準備ができていなかった。結局振り返りもないまま終了し、モヤモヤしていた。今回の受講を機に、やれるところから取り組んでいきたい
- 近年の災害対応事例や参考になる情報・ツールがたくさん掲載されており、参考になりました。
- 災害時の受援にあたり、設備等の情報を支援側に伝える必要性は盲点でした。また、Google ワークシートの活用についても参考になりました。
- 資料や情報を「知っている」だけでなく「使える、使い慣れておく」ことが大切だということをさらに感じました。
- 個人的に盲点であったのが、センターの閉設時期のタスクでした。手引きで紹介されている各協会・市町村のセンター設置や災害に関する取組みや、宮城県国際化協会・仙台観光国際協会が残した記録は、リアルな現場の動きが伝わってくるものであり、動きを考える上で大変参考になります。災害時は各自担当業務に応じて動く場面が多いと想定されるため、「関係者がいるうちに記録を残す」ことについて共通認識をもっておくことが重要だとかんじました
- 災害時のカルテの書き方等

- 【ワーク5−2】応援者への連絡事項について、事前に整理はできないが、そういう観点での整理が必要であることがしれて良かった
- 避難所で「外国人」という先入観で決めつけないことや，「多言語支援ツールは，日本語しかできない日本人のためにある。」という説明等々
- 国籍・使用言語など、地域の在住外国人の状況は短期間に変化し得ること・インバウンド旅行客の増加により、災害時の外国人旅行者支援も課題となっていること・実際に災害時支援センターを運営するためには、事前に具体的な準備（場所、ツール、携わる人員、連絡先等）が必要であること・災害時支援センターの活動を終了する際にも行うべきことがあること
- 避難所では観光客も在住外国人も違いはないということにハッとさせられました。観光客にとってはやさしい日本語は通じない可能性多く、きちんと翻訳ツールが使えるように受け入れる側の体制を整える必要があると改めて感じました

Q10-1.「防災・減災のための多言語支援の手引…とや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？
66 件の回答





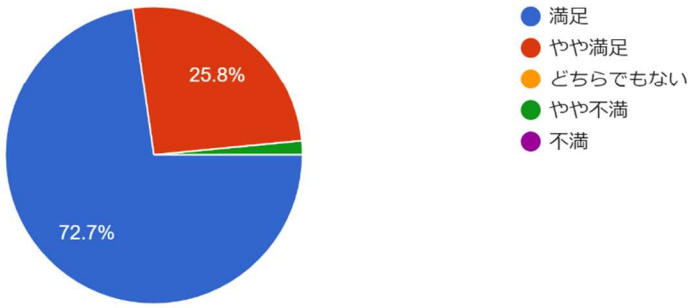
Q10−2.「Q.10−1」で「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

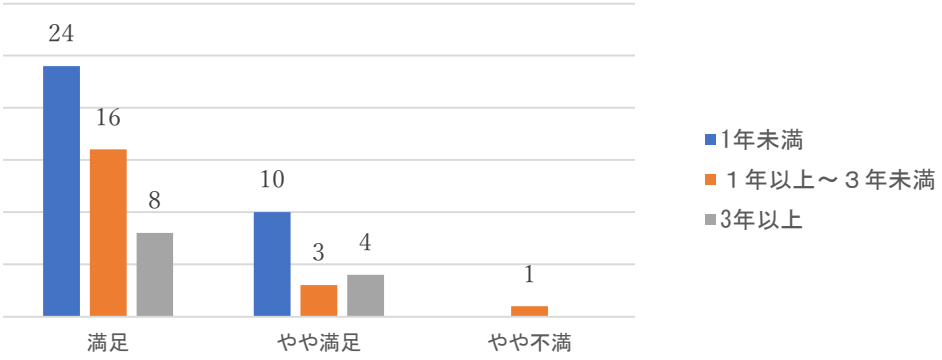
- 県と市町・協会・その他の団体との役割分担について
- もう少しきちんと読み込みます
- 自分たちの形式や様式について、外部からの支援を想定して google drive を活用してはいたが、ボランティア人材の連絡先など、具体的な想定はできていなかったと気づきの機会になった
- 今一度自分たちの様式や情報の在処など確認しようと思う。
- 文例集や気象庁のワークシートはかなり分量があるので、あらかじめ用意しておいて役に立った文例等について教示願いたい
- 実際に災害が発生した場合のワークシートや文例集の活用例を知りたいです。
- 自主的に集めて発信していく情報で基本的なものとしてはどのような情報を出していけばよいか

- 外国人は災害時にどういった情報を欲しているのかより知りたいと思った。我々はあまりに無意識に災害関連情報を集めるので、外国人の視点に立った考え方をしたい。
- 他県の事例
- 平時に防災研修を受けた通訳ボランティアが実際に災害多言語支援センター情報班で活動する際の注意点、事例
- 実務として利用できることが重要。今の情報を常にアップデートすること。
- 災害がない・少ない国や地域から来ている外国人でも、防災に関する理解・関心が高まるようなナラティブの必要性
- ワーク 6【災害情報の入手】
- 自分で情報を取りに行くということが本当に難しいと思う。支援する側もされる側も、どのようにどのていど情報収集すればよいか、正確でいかに早いものを収集するかは過去に経験しても上手く行くか分からない。このリストについてもっと知りたいと思った。
- 実際にワーク等を作成、進めて行くうちに疑問点が出てくると思います
- 災害多言語支援センター設置運営マニュアルの改定に向けたポイント及びその詳細
- 発災現場での応援はいくらでも必要だと思うが、現場がどういう状況か、何が求められるか、ということは、現場経験を重ねないと想像出来ないと思いました。また、応援に行って終わりではなく、情報を取りまとめ次に渡すことも含めて現地支援となることを学びました
- 災害時対応の記録の必要性、という話がありましたが、記録にあたっての項目分け等について紹介があるとありがたいと思いました。
- 大きな災害が起こっていないこともあるかもしれませんが、地域国際化協会連絡協議会ブロック間の支援体制は、東京内（特に区部）では図表上で見るだけで、実際どういうしくみや流れで動くのかがわかりません。合同研修なども行われていない気がしますが、そのような動きはあるのでしょうか。東京都（生文スポーツ局）との連携があるのか、あるのであればどういう連携なのかなどもわかりません。
- p.13＜ポイント1＞の記述にある「在留資格の違いによる支援策の検討」とは、具体的にどのようなことか教えていただきたいです。
- 当県において都道府県、市町村、国際交流協会それぞれの役割分担、連携が構築されておらず、その仕方についても詳しく知りたかった。
- また、外国人を対象とした避難訓練の実施方法についても教えてほしかった。

Q11-1.　第1回オンライン研修全体を通じての満足度をご回答ください

66 件の回答





Q11-2. Q11-1 の回答の理由や第1回オンライン研修全体を通じてのご意見やご感想をお聞かせください

- このような機会が初めてだったので，体系立てて理解する良い機会となりました
- 手引きの解説という場を設けていただけたことが大変ありがたかったです
- 今後、ワークシートを参考にしながらマニュアルの見直しを行いたい
- とても分かりやすかったです
- 定期的に見ることで振り返る機会にもなるため、ベテランの方でも参加すべきだと思った。
- 何をしたらよいかわからない状況から、今必要な準備や動きを理解できた点で、とても有意義な機会だった
- 初心者を対象にした研修だったと思いますが、初心者に限らず受講した方がいいと思う内容でした
- 基礎動画にしても今回のオンライン講義にしても、土井さんのご説明が大変分かりやすく、協会内の他の職員にも見てほしかった。私は災害担当ではないため、災害担当にどこまで共有したらよいか迷っているが、少なくとも私の意識が変わったように思った。
- 大変勉強になりました。おそらく、本県では今回大切だと教わった、いざというときと平時の災害に関する役割分担が全くできておらず、危機感を感じました。
- 改めて災害時の外国人支援の必要性が認識できた
- 私は災害対応に関しても、外国人対応に関しても経験が浅いので、すべてが勉強になりました。特に事前準備が大事だということを理解しました
- 多文化事業も災害対策も両方初めて担当するので、全体の概要を知ることができて大変勉強になりました
- ペースやレベルがちょうどよく聴きやすかった。
- 災害多言語支援センター設置の流れと事前の準備が分かりました
- 遠方より明日からの現地研修に参加する場合、様々な事情で昼に移動しなければ間に合わない
- 直前ではなくせめて二日前くらいにオンライン研修にしていただければと思う
- 講師における体験談や先般の能登半島地震での実例等の御紹介は有意義でした
- 多言語支援センターの設立方法、次の災害に活かすための知識・経験の蓄積の重要性を理解することができました
- 災害時多言語支援センターの設置訓練を予定しているため、訓練前に参考となる情報を聞くことができて良かった
- 在住外国人と訪日観光客では必要な情報、情報を得る方法や言語など違いがあることを把握した上で他課や外部の協力依頼先と平時から連絡連携を取り合っていきたい
- 簡潔で事例や経験を交えた説明で、元々知っていたことでも、その内容を裏付けたり、内容を深く理解することができました。ありがとうございます
- 勤務中に出席し、全部は見れなかったので録画を共有していただければ助かります
- とても分かりやすくご講義をしていただき、ありがとうございました。「防災・減災のための多言語支援の手引き 2023」をみんなで一緒に確認をすることも有意義です。
- 他の部署との連携も必要な部分があるので横の展開をどのようにしていけばいいか考えないといけないなと感じました
- 質問は質問者の話が長かったのでチャットだけで受け付ける形式の方がよかったかと思います
- 土井講師のお話が分かりやすく、はっきりとしたお考えが伝わってきたので、大変参考になった。災害時をイメージして、足りないことをひとつずつ解決したい
- 参加者からの質問が少なかった
- オンライン研修で顔出しする意味があったのか、また何に使うのか知りたい。
- 事前視聴で、様々な災害を経験してここにきている様子がとても分かりやすかった。
- 過去の経験を無駄にしてはいけないこと、それをいかに活かしていくかが重要であることを学べて良かったと思う
- 災害についてはいつ起こるかわからないため、他人事にしている面があった。でもこの手引きを読んだり研修を受けて、備えていかなければならないこと、またそれをどのように伝えるかが自分の中で課題となった

- 事前に質問したことを、講師にサラッと回答されたがよくわからなかった。能登半島地震の被災者になる私は、自分の情報収集を外国人だったらできるかと言われたら出来ないと答えると思う。でも日々の生活でのコミュニケーションの重要性は伝えたいと思う
- 初めてかかわる業務なので、基礎的なことや役立つデータの場所、心構えなどを学ぶことができて有意義だった
- わかりやすい説明でした
- 災害時多言語支援センターの運営に携わった経験を有する講師ならではの細かい気づきなどをお話し頂き、非常に参考になりました
- 今回の研修は、災害時における外国人支援に関する基礎知識、最新情報等の概要を学ぶことができ、大変意義深い内容でした。特に、ご紹介いただいたて手引きは、災害時外国人支援に関する情報を網羅的に、かつわかりやすく体系的に整理されており、今後の業務に大変役立つと感じました。また、講師の先生は、災害時外国人支援に関する豊富な知識と経験をお持ちで、わかりやすく丁寧な説明をしてくださいました。実際に外国人支援を行う際のイメージを具体的に持つことができました。心より感謝申し上げます
- 始まる前に司会の方から画面オフのアナウンスがありましたが，できればオンの方が講師も喜ぶと思います
- 定期的に参加させていただいております。毎回新たな発見と忘れてきている内容を再度確認させていただいております。いつもありがとうございます。
- 前述のとおり、学びが多く、今後も様々な事例の収集をとおして理解を深めたいと思います
- マニュアルはとても見やすく読みやすく活用させていただけますが、記載情報の背景に何があるかを理解することで、マニュアルの見方を深めることができました
- 基礎講義動画について、youtube 広告が頻繁に入り非常に気になりました（音量レベルも違うので、いきなり爆音で広告が流れます）。公開範囲を限定しているのであれば、収益化よりも学習効率を優先していただけるとありがたいです
- いざ災害がおこったときに、外国人支援に向けて何ができるか、どのように動くのか、見えて勉強になりました
- 協会内で災害の勉強会を行っているのですが、そこで最新手引きを活用させていただいているということもあり、今回の研修で解説していただいたポイントや、土井さんの実体験に基づく助言は大変参考になるものでした。何のために使うワークなのか、用途がより明確になりましたので、協会内で優先順位を相談し取り組んでまいりたいと思います。貴重なご講演をありがとうございました
- まずは、マニュアル内のワークシートを使って現状を把握し、関係者で課題を共有するところから始めようと思います
- 手引きは、これまでの各地の取組や実際の運営の経験を踏まえた非常に有用なものだと思った
- 実際に運用する前に準備できることが多数あることが分かった。災害時外国人支援について取り組みが十分にされておらず、ワークシートを活用して出来るところから準備していこうと思いました
- 防災担当等多くの関係者が受講できるよう参加定員がもう少し多ければ嬉しかったです

Q12. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において、取り上げると良い思う内容等があればお聞かせください。

- 実際に災害多言語支援センターを立ち上げた事例を聞けると参考になると思う
- 外国人支援者養成の事例紹介
- 外国人支援ではなく、避難所運営を担当している日本人（自治会長やリーダー格）に外国人のことを理解してもらえるような取り組み。外国人も避難所運営の仲間にして良い、という意識を持ってもらえるようなこと
- 今回のような内容の研修を継続して行っていただければありがたいです。有難うございました
- 外国人に防災意識を高める方法を教えてください
- 実際に災害支援をした方の戸惑い等、実施者の話を聞いて、支援に役立てたいと思う
- 災害の種類ごとの他県の事例
- 翻訳・通訳も含め遠隔の支援によるシミュレーション

- 今回の研修では手引きについて補足説明等していただきともて実践的な内容でした。今後は外国人の困りごとやトラブルの事例なども知ることができれば，訓練でのシナリオを組み立てる際に参考にできるのではないかと思います。講師の土井先生，コンパクトでわかりやすい説明をありがとうございました
- 平時でのコミュニケーション、情報のトリアージ方法、受援力
- 能登半島沖地震で私が情報を得たのは、母親のコミュニケーションのおかげだった。自分にとって難しい受援力を教えてほしい
- 職員も定期的に異動があるため、このような基礎的研修が年1回でもあると大変助かります
- 災害多言語支援センター設置運営マニュアル作成や見直しのコツ

以上